

アジア・ヘルスケア株式ファンド

運用報告書（全体版）

第19期（決算日 2024年6月21日）

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

「アジア・ヘルスケア株式ファンド」は、2024年6月21日に第19期の決算を行ないましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／株式
信託期間	2015年1月16日から原則無期限です。
運用方針	主として、アジア（日本を除きます。）各国の金融商品取引所に上場されている医療関連企業の株式（これに準ずるものを含みます。）を投資対象とする投資信託証券（投資信託または外国投資信託の受益証券（振替投資信託受益権を含みます。）および投資法人または外国投資法人の投資証券をいいます。）の一部、またはすべてに投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要運用対象	「日興AMアジア・ヘルスケア・ファンド（JPYクラス）」受益証券 「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券 上記の投資信託証券を主要投資対象とします。
組入制限	投資信託証券、短期社債等、コマーシャル・ペーパーおよび指定金銭信託以外の有価証券への直接投資は行ないません。外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
分配方針	毎決算時、原則として分配対象額のなかから、基準価額水準、市況動向などを勘案して分配を行なう方針です。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。

<642681>

日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号
www.nikkoam.com/

当運用報告書に関するお問い合わせ先

コールセンター 電話番号：0120-25-1404
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

【運用報告書の表記について】

・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

○最近5期の運用実績

決算期	基準 (分配落)	価額			債 組 入 比	券 率	投 資 信 託 組 入 比	純 資 産 額
		税 分	込 配	み 金				
	円		円		%	%	百万円	
15期(2022年6月21日)	9,119		0		△6.2	—	98.8	7,378
16期(2022年12月21日)	9,026		0		△1.0	—	98.6	6,963
17期(2023年6月21日)	9,225		0		2.2	—	98.3	6,746
18期(2023年12月21日)	9,216		0		△0.1	—	98.9	6,252
19期(2024年6月21日)	9,293		0		0.8	0.1	98.8	6,000

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券組入比率」は実質比率を記載しております。

(注) ファンドの商品性格に適合する適切なベンチマークおよび参考指数はございません。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準	価 額		債 組 入 比	券 率	投 資 信 託 組 入 比	純 資 産 額
		騰 落	率				
(期首)		円	%		%		%
2023年12月21日		9,216	—		—		98.9
12月末		9,375	1.7		—		98.7
2024年1月末		8,694	△5.7		—		98.6
2月末		9,406	2.1		—		98.8
3月末		9,209	△0.1		—		98.7
4月末		9,432	2.3		0.1		98.9
5月末		9,093	△1.3		0.1		98.4
(期末)							
2024年6月21日		9,293	0.8		0.1		98.8

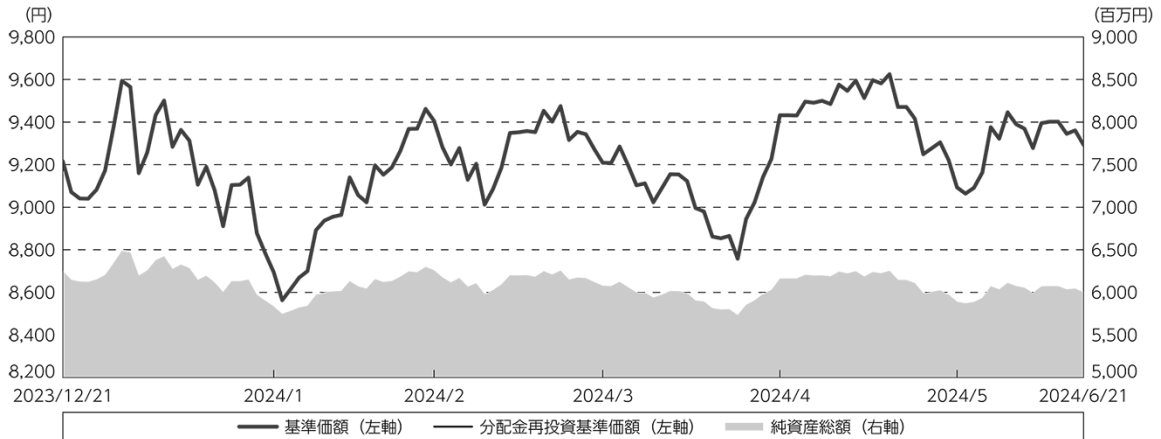
(注) 騰落率は期首比です。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券組入比率」は実質比率を記載しております。

○運用経過

(2023年12月22日～2024年6月21日)

期中の基準価額等の推移



期 首：9,216円

期 末：9,293円 (既払分配金(税込み)：0円)

騰落率： 0.8% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、期首(2023年12月21日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、日本を除くアジアの金融商品取引所に上場されている医療関連企業の株式を投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行なっております。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

<値上がり要因>

- ・インドのジェネリック医薬品メーカーや病院銘柄など、インドの保有銘柄が好調に推移したこと。
- ・韓国の医薬品受託製造開発機関(CDMO)や医薬品セクターの株価が上昇したこと。
- ・世界の株式市場が好調に推移したこと。
- ・アメリカドルなど主要通貨に対して円安が進んだこと。

<値下がり要因>

- ・米国のバイオセキュア法案が2024年1月に発表されたことを受けて、米国の国家安全保障にとって中国のCDMOが脅威であるとみなされ、中国のCDMOセクターが大幅に下落したこと。
- ・米国連邦準備制度理事会（FRB）議長が高金利政策の長期化を示唆するなど、市場で高金利の長期化懸念が広がったこと。

投資環境

（アジア株式市況）

世界金融危機以降の比較的平穏な市場環境は終焉を迎えており、「量的引き締め」という新たな社会が金融市場の流動性を縮小させています。同時に、金融政策の引き締めがピークに近いとみられ、足元のデータではインフレが後退していることが示されています。これらは、転換点が近づきつつあることを示唆していますが、米国の景気後退の懸念が払拭されてはならず、楽観的になるには時期尚早です。足元では、FRBによる利上げが一服し、アメリカドルは最高値を更新するには至らず、一部の新興国の中央銀行は米国に先駆けて利下げに踏み切っています。

過去1年で投資の中心となってきたテーマは、2つありました。1つは人工知能（AI）の台頭、もう1つは化石燃料から再生可能エネルギーへの移行を進めるエネルギー・トランジションで、これがテクノロジーおよびエネルギーセクターの好調につながりました。

ヘルスケアセクターは劣後し、国別では中国が主にマイナスに影響しました。米国でバイオセキュア法案が提出されたことで、米中間の地政学的緊張の高まりが再び懸念されました。2024年5月には同法案の修正案として、医薬品サプライチェーン（供給網）の混乱を軽減するために、既存の契約を2032年まで継続できるようにする既得権条項が追加されました。中国の医薬品関連業務受託機関（CXO）の売上高の約40%が、米国の顧客によるものとみられています。

一方、インドのヘルスケア市場は好調に推移しました。インドのジェネリック医薬品メーカーは、最大の輸出市場である米国において価格設定圧力が緩和していることが引き続き追い風となっています。米国では過去最大のジェネリック医薬品不足を解決する方法について議論が行なわれ、ジェネリック医薬品の低価格、製造の複雑さ、地理的な集中、製品の品質など、医薬品の供給が途絶えやすい問題を調査するために協調的な取り組みが行なわれている模様です。2023年には医薬品不足が過去10年で最大となっただけでなく、医薬品不足は平均で3年超と長期にわたり続いています。国内要因では、インドの病院銘柄は、保険普及率の向上、富裕層の増加、適切な公立病院インフラの不足を受けて、収益性と病床占有率が向上しました。

韓国のCDMOや医薬品セクターも好調に推移しました。韓国の大手医薬品企業が開発を進めている後段階の革新的医薬品候補において良好な臨床試験データが出たことから、医薬品セクターが主に上昇を牽引しました。肺がん治療薬のグローバルな権利が米国のトータルヘルスケアカンパニーの医薬品部門にライセンス供与されており、2024年後半には米国食品医薬品局（FDA）の承認が見込まれています。生産能力を拡大している韓国のCDMOセクターは、米国のバイオセキュア法案の可決が追い風となる可能性があります。

（国内短期金利市況）

無担保コール翌日物金利は、期間の初めの-0.01%近辺から、日銀によるマイナス金利政策の下でコール市場でもマイナス圏での取引が続いたものの、2024年3月の金融政策決定会合においてマイナス金利政策の解除が決定されたことから、0.08%近辺で期間末を迎えました。

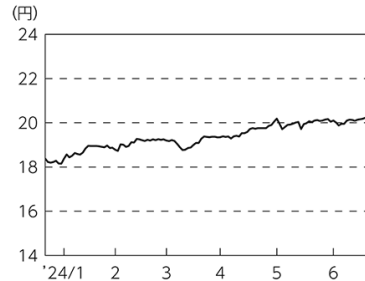
国庫短期証券（TB）3ヵ月物金利は、期間の初めの-0.18%近辺から、日銀による国債買入れの継続など

を受けてマイナス圏での推移が続いたものの、3月にはマイナス金利政策の解除が決定されたことから、0.00%近辺で期間末を迎えました。

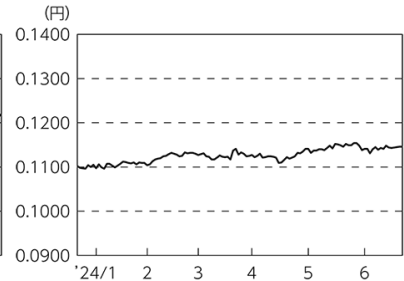
(為替市況)

期間中における主要通貨(対円)は、右記の推移となりました。

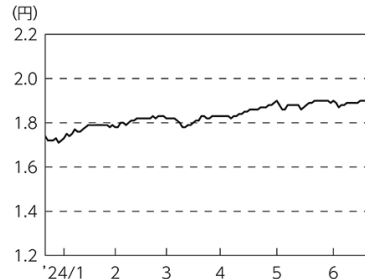
円／香港ドルの推移



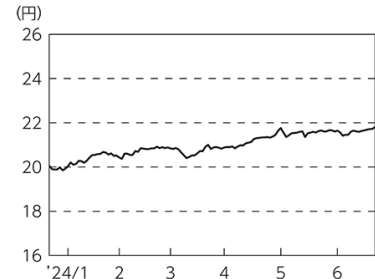
円／韓国ウォンの推移



円／インドルピーの推移



円／香港・オフショア人民元の推移



当ファンドのポートフォリオ

(当ファンド)

当ファンドは、収益性を追求するため、「日興AMアジア・ヘルスケア・ファンド(JPYクラス)」受益証券を高位に組み入れ、「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券への投資を抑制しました。

(日興AMアジア・ヘルスケア・ファンド(JPYクラス))

期間中は、インドがプラスに寄与しました。ジェネリック医薬品メーカーや国内に注力する製薬会社に加えて、米国のバイオセキュア法案の恩恵が見込まれるC×Oの保有銘柄も上昇しました。一方、ファンダメンタルズ(経済の基礎的条件)に照らした株価が割高でガバナンスが疑問視されるようなヘルスケア企業については、引き続き組入れを避けています。

韓国では、米国のトータルヘルスケアカンパニーの医薬品部門が臨床試験で良好なデータが出たことを受けてプラスに寄与しました。がん、循環器系疾患、メタボリック疾患など幅広い疾患向けに遺伝子療法を開発する顧客にオリゴヌクレオチド(短いDNAまたはRNA分子)を提供する世界的企業など、C×Oセクターの株価は、顧客企業が血液がんの遺伝子療法のFDA承認に向かうなかで株価が大きく上昇しました。一方でC×O大手は、バイオセキュア法案の報道を受けて株価が上昇したものの、期間の後半にかけて利益確定売り

が見られました。

中国では、バイオテクノロジーセクターの保有銘柄の上昇が、一部のC×Oセクターの低迷を打ち消しました。当ファンドが長期にわたり保有してきた中国の製薬会社の1社については、2023年の業績が予想を下回ったことを受けて株価が大幅に下落しましたが、当ファンドでは、ファンダメンタルズに関するテーマは引き続き有効であり、足元の株価は売られ過ぎの水準と考えています。同社や同社の会長は現在の水準で株式を買い戻しており、同社の回復を確信していることがうかがえます。

(マネー・アカウント・マザーファンド)

運用の基本方針に従い、国庫短期証券の購入や現先取引、コールローンや金銭信託などを通じて、元本の安全性を重視した運用を行ないました。

当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

分配金

分配金は、基準価額水準、市況動向などを勘案し、以下のとおりといたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

(単位：円、1万円当たり、税込み)

項 目	第19期
	2023年12月22日～ 2024年6月21日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	1,952

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

○今後の運用方針

(当ファンド)

引き続き、「日興AMアジア・ヘルスケア・ファンド（JPYクラス）」受益証券を原則として高位に組み入れ、「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券への投資を抑制する方針です。

(日興AMアジア・ヘルスケア・ファンド（JPYクラス）)

F R Bの利下げが2024年内に1回あるいは何回になるのかについて議論が続き、世界の市場環境は不透明な状況が続いています。直近の動向として、F R Bは高止まりしているインフレに対処するために、年内の利下げ予想を1回のみを引き下げましたが、市場では足元の消費者物価指数（C P I）の鈍化に注目が集まっています。F R Bは、現在から2024年の秋にかけて一連のインフレ指標が良好となることを見込んでおり、それによってインフレ率が2%の水準に戻るとの確信が得られれば、F R Bの見通しは再びたやすく転換する可能性があります。つまり、引き続きインフレが政策金利の主な決定要因になるとみられます。これは世界のバイオテクノロジー企業の資金調達にとって重要であり、ヘルスケアセクター、特にバイオテクノロジーやC X Oのサブセクターにおけるイノベーション（革新）や成長の主要な牽引役の1つとなります。2024年の初めから6月半ばにかけて、バイオテクノロジー分野の資金調達額は前年同期比で約50%増となっており、2023年終盤以降ポジティブな傾向が示されています。

2023年末に強調したように、2024年は多くの国で選挙が実施され、波乱が見込まれています。これまでのところ、台湾、インドネシア、インドの総選挙が終了しました。台湾とインドネシアの選挙は、概ね市場の予想通りの結果となりましたが、インドの首相の3期目就任に向けた勝利獲得は苦戦しました。当ファンドでは、インド人民党（B J P）を中心とした与党連合が僅差での勝利となったことが、インドのヘルスケア市場にとってどのような意味を持つのかを考えています。消費関連、ヘルスケア、ソフトウェアはインドの状況において概してディフェンシブ（景気動向に左右されにくい）セクターとみなされており、選挙結果を受けて市場がもみ合いのちこれを消化するにつれて、株価は上昇していくとみられます。とはいえ、インドの株式市場はバリュエーション（株価評価）・プレミアムが比較的高水準にあることから、当面は幾分調整する可能性があります。当ファンドでは、連立政権が国内の薬価や国民健康保険プログラムなどの公的医療制度に関して、よりポピュリスティックな政策に舵を切る初期の兆候を注視しています。選挙に向けた市場のボラティリティ（価格変動性）の高まりを好機と捉えて、インドの医薬品分野で既存ポジションの積み増しを行ないました。

中国については、米国のバイオセキュア法案が成立するまでには長い立法プロセスがあることから、これが中国のC X Oセクターに直ちに影響を与えるものではないとみていますが、米国大統領選挙を控えた地政学的状況の厳しさを考慮して、2024年1月に中国の投資比率を低めにしました。ここ数ヶ月で中国のヘルスケアセクターは下落しており、これは正しい判断だったといえます。その後、法案が米国議会を進む過程で、そのペースや勢いは鈍化しています。まず、中国のC X O企業との既存契約を2032年まで保護する既得権条項が5月に追加されました。そして同月の中旬に、米国下院委員会はこの法案を国防権限法（N D A A）から除外しましたが、上院版のN D A Aにこの法案が含まれるのか、あるいは法案が単独で審議される可能性があるのかはまだ不明です。一方、医薬品開発の途中でC D M Oの提携先を変更することはコストも時間もかかることから、バイオ医薬品企業は中国のC D M Oの利用を避ける可能性があり、競争環境は韓国やインドのC D M O企業に有利となる可能性があります。当ファンドでは、韓国のC X Oにおいてこうした状況を十分に活かせるポジションを取っており、またインドのC X Oの保有を拡大しました。

長期的には、アジアのヘルスケア市場のファンダメンタルズに基づく投資妙味に揺らぎはないと考えています。従来の化学療法に代わる可能性のある抗体薬物複合体の登場や、満たされていないニーズを満たす

アルツハイマー病の早期治療のほか、G L P - 1 減量薬の世界的に大きな成功が、ヘルスケアのイノベーションを促進しています。過去5年間で市場は非常に大きく拡大しました。中国や韓国などの市場で医療イノベーションに向けたヘルスケア改革が進み、バイオテクノロジーやC X O、A I など新たなサブセクターが登場したことによって、アジアのヘルスケアセクターにおける投資機会は大きく拡大しました。当ファンドでは、アジアのヘルスケアセクターの発展は、投資家により大きなリターンをもたらすと考えています。当ファンドでは、あらゆる調整機会を捉えてこの構造的成長セクターに投資する方針です。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

(マネー・アカウント・マザーファンド)

引き続き、安定した収益の確保をめざして安定運用を行なう方針です。主な投資対象は、わが国の国債および格付の高い公社債とし、それらの現先取引なども活用する方針です。また、コールローンや金銭信託などに投資することもあります。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2023年12月22日～2024年6月21日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円	%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(11)	(0.121)	委託した資金の運用の対価
(販 売 会 社)	(40)	(0.440)	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
(受 託 会 社)	(2)	(0.016)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	2	0.022	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0.002)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(印 刷 費 用 等)	(2)	(0.019)	印刷費用等は、法定開示資料の印刷に係る費用など
合 計	55	0.599	
期中の平均基準価額は、9,201円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

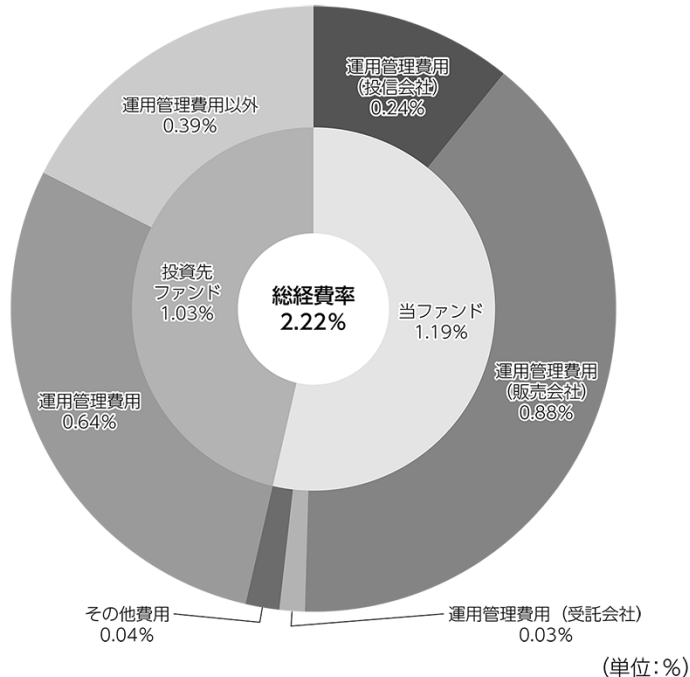
(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注) この他にファンドが投資対象とする投資先においても信託報酬等が発生する場合があります。

(参考情報)

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は2.22%です。



総経費率(①+②+③)	2.22
①当ファンドの費用の比率	1.19
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.64
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.39

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 「その他費用」には保管費用が含まれる場合があります。なお、「その他費用」の内訳は「1万口当たりの費用明細」にてご確認いただけますが、期中の費用の総額と年率換算した値は一致しないことがあります。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（親投資信託を除く。）です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2023年12月22日～2024年6月21日)

投資信託証券

銘柄		買付		売付	
		口数	金額	口数	金額
国内	日興AMアジア・ヘルスケア・ファンド(JPYクラス)	千口 —	千円 —	千口 335,575	千円 339,941

(注) 金額は受け渡し代金。

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄		設定		解約	
		口数	金額	口数	金額
	マネー・アカウント・マザーファンド	千口 —	千円 —	千口 474	千円 474

○利害関係人との取引状況等

(2023年12月22日～2024年6月21日)

利害関係人との取引状況

<アジア・ヘルスケア株式ファンド>

区分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$

<マネー・アカウント・マザーファンド>

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三井住友信託銀行株式会社です。

○第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2023年12月22日～2024年6月21日)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

○自社による当ファンドの設定・解約状況

(2023年12月22日～2024年6月21日)

該当事項はございません。

○組入資産の明細

(2024年6月21日現在)

ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

銘柄	期首(前期末)	当 期 末		
	口 数	口 数	評 価 額	比 率
	千口	千口	千円	%
日興AMアジア・ヘルスケア・ファンド (JPYクラス)	6,107,306	5,771,731	5,928,722	98.8
合 計	6,107,306	5,771,731	5,928,722	98.8

(注) 比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

親投資信託残高

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
	千口	千口	千円
マネー・アカウント・マザーファンド	6,355	5,881	5,892

(注) 親投資信託の2024年6月21日現在の受益権総口数は、454,507千口です。

○投資信託財産の構成

(2024年6月21日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
投資信託受益証券	5,928,722	98.1
マネー・アカウント・マザーファンド	5,892	0.1
コール・ローン等、その他	106,467	1.8
投資信託財産総額	6,041,081	100.0

(注) 比率は、投資信託財産総額に対する割合です。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2024年6月21日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	6,041,081,108
コール・ローン等	106,466,161
投資信託受益証券(評価額)	5,928,722,119
マネー・アカウント・マザーファンド(評価額)	5,892,575
未収利息	253
(B) 負債	40,786,300
未払解約金	4,202,534
未払信託報酬	35,270,778
その他未払費用	1,312,988
(C) 純資産総額(A-B)	6,000,294,808
元本	6,456,805,139
次期繰越損益金	△ 456,510,331
(D) 受益権総口数	6,456,805,139口
1万口当たり基準価額(C/D)	9,293円

(注) 当ファンドの期首元本額は6,783,869,872円、期中追加設定元本額は109,619,418円、期中一部解約元本額は436,684,151円です。

(注) 1口当たり純資産額は0.9293円です。

(注) 2024年6月21日現在、純資産総額は元本額を下回っており、その差額は456,510,331円です。

○損益の状況 (2023年12月22日～2024年6月21日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	22,226
受取利息	23,247
支払利息	△ 1,021
(B) 有価証券売買損益	86,649,184
売買益	93,216,599
売買損	△ 6,567,415
(C) 信託報酬等	△ 36,583,766
(D) 当期繰越損益金(A+B+C)	50,087,644
(E) 前期繰越損益金	△ 596,344,397
(F) 追加信託差損益金	89,746,422
(配当等相当額)	(136,931,072)
(売買損益相当額)	(△ 47,184,650)
(G) 計(D+E+F)	△ 456,510,331
(H) 収益分配金	0
次期繰越損益金(G+H)	△ 456,510,331
追加信託差損益金	89,746,422
(配当等相当額)	(136,931,072)
(売買損益相当額)	(△ 47,184,650)
分配準備積立金	1,123,449,131
繰越損益金	△1,669,705,884

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 分配金の計算過程(2023年12月22日～2024年6月21日)は以下の通りです。

項 目	2023年12月22日～ 2024年6月21日
a. 配当等収益(経費控除後)	11,926円
b. 有価証券売買等損益(経費控除後・繰越欠損金補填後)	0円
c. 信託約款に定める収益調整金	136,931,072円
d. 信託約款に定める分配準備積立金	1,123,437,205円
e. 分配対象収益(a+b+c+d)	1,260,380,203円
f. 分配対象収益(1万口当たり)	1,952円
g. 分配金	0円

上記各資産の評価基準及び評価方法、また収益及び費用の計上区分等については、法律及び諸規則に基づき、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して評価計上処理しています。

○分配金のお知らせ

1 万口当たり分配金 (税込み)	0円
------------------	----

○お知らせ

約款変更について

2023年12月22日から2024年6月21日までの期間に実施いたしました約款変更はございません。

当ファンドの主要投資対象先の直近の運用状況について、法令および諸規則に基づき、次ページ以降にご報告申し上げます。

種類・項目	日興AMアジア・ヘルスケア・ファンド(JPYクラス)	
	シンガポール籍円建外国投資信託	
運用の基本方針		
基本方針	信託財産の中長期的な成長を目指します。	
主な投資対象	日本を除くアジアの医療関連企業の株式(預託証券を含みます。)を主要投資対象とします。	
投資方針	<ul style="list-style-type: none"> ・日本を除くアジアの医療関連株式(預託証券を含みます。)を主要投資対象とします。 ・運用にあたっては、ボトムアップの企業分析とトップダウンのマクロ見通しを融合して、ポートフォリオを構築します。 	
主な投資制限	<ul style="list-style-type: none"> ・株式への投資割合に制限を設けません。 ・一の発行体に対する投資割合は、原則として信託財産の純資産総額の10%以下とします。 ・外貨建資産への投資割合には制限を設けません。 ・証券の空売りは行ないません。 	
収益分配	原則として、毎年6月12日と12月12日(休日の場合は翌営業日)に分配を行ないます。なお、運用会社の判断により収益分配を行なわないことがあります。	
ファンドに係る費用		
信託報酬など	純資産総額に対して年率0.65% (国内における消費税等相当額はかかりません。)	
申込手数料	ありません。	
信託財産留保額	ありません。	
その他の費用など	事務管理費用、資産の保管費用、有価証券売買時の売買委託手数料、設立に係る費用、法律顧問費用、監査費用、信託財産に関する租税など。	
その他		
運用会社	日興アセットマネジメント アジア リミテッド	
信託期間	無期限	
決算日	原則として、毎年12月末日	

◆ポートフォリオ明細表

日興AMアジア・ヘルスケア・ファンド

2023年12月31日現在

地域別（第一区分）	数量	公正価値 シンガポール・ドル	受益者に帰属 する純資産に 占める割合 %
上場株式			
中国			
AIER Eye Hospital Group Company Limited	252,648	740,429	1.26
CanSino Biologics Incorporated	123,000	489,332	0.83
ClouDr Group Limited	255,000	295,079	0.50
CSPC Pharmaceutical Group Limited	2,929,680	3,593,058	6.10
Hangzhou Tigermed Consulting Company Limited	51,894	528,450	0.90
IMEIK Technology Development Company Limited	10,600	577,965	0.98
Innovent Biologics Incorporated	467,000	3,372,566	5.73
JD Health International Incorporated	137,350	907,220	1.54
Jiangsu Hengrui Pharmaceuticals Company Limited	282,417	2,366,349	4.02
Keymed Biosciences Incorporated	100,500	833,595	1.42
RemeGen Company Limited	46,000	291,016	0.50
Shanghai MicroPort MedBot Group Company Limited	167,000	588,207	1.00
Shenzhen Mindray Bio-Medical Electronics Company Limited	39,800	2,142,595	3.64
Sinopharm Group Company Limited	240,400	830,492	1.41
WuXi AppTec Company Limited – Class A	117,000	1,577,030	2.68
WuXi AppTec Company Limited – Class H	73,800	990,507	1.68
WuXi Biologics Cayman Incorporated	615,500	3,077,706	5.23
WuXi XDC Cayman Incorporated	125,774	679,905	1.15
Yixintang Pharmaceutical Group Company Limited	170,266	730,513	1.24
中国合計		24,612,014	41.81
香港特別行政区			
China Medical System Holdings Limited	762,000	1,781,552	3.03
HUTCHMED China Limited	374,000	1,813,263	3.08
Sino Biopharmaceutical Limited	899,750	527,423	0.89
香港特別行政区合計		4,122,238	7.00
インド			
Cipla Limited	83,178	1,646,855	2.80
Divi's Laboratories Limited	18,114	1,122,157	1.91
Dr Reddy's Laboratories Limited	18,730	1,722,365	2.92
Krishna Institute of Medical Sciences Limited	24,762	776,891	1.32
Rainbow Children's Medicare Limited	34,747	653,013	1.11
Sun Pharmaceutical Industries Limited	250,000	4,993,386	8.48
Torrent Pharmaceuticals Limited	16,014	583,167	0.99
インド合計		11,497,834	19.53
インドネシア			
Kalbe Farma TBK PT	6,945,700	958,044	1.63
Medikaloka Hermina TBK PT	4,756,600	607,192	1.03
インドネシア合計		1,565,236	2.66
韓国			
Celltrion Incorporated	27,529	5,681,498	9.65
Jeisys Medical Incorporated	100,840	1,083,442	1.84
Lunit Incorporated	7,327	614,621	1.05
Samsung Biologics Company Limited	6,337	4,932,814	8.38
ST Pharm Company Limited	14,778	1,026,225	1.74
韓国合計		13,338,600	22.66

地域別（第一区分）(続き)

	数量	公正価値 シンガポール・ドル	受益者に帰属 する純資産に 占める割合 %
上場株式（続き）			
タイ			
Bangkok Dusit Medical Services Public Company Limited	654,300	701,699	1.19
タイ合計		<u>701,699</u>	<u>1.19</u>
米国			
BeiGene Limited	94,000	1,748,327	2.97
米国合計		<u>1,748,327</u>	<u>2.97</u>
非上場株式			
中国			
China Animal Healthcare Limited	1,246,000	-	-
中国合計		<u>-</u>	<u>-</u>
非上場株式合計		<u>-</u>	<u>-</u>
合計		<u>57,585,948</u>	<u>97.82</u>
投資ポートフォリオ		<u>57,585,948</u>	<u>97.82</u>
その他純資産		<u>1,285,190</u>	<u>2.18</u>
受益者に帰属する純資産		<u>58,871,138</u>	<u>100.00</u>

地域別（要約）	受益者に帰属 する純資産に 占める割合 %
上場株式	
中国	41.81
香港特別行政区	7.00
インド	19.53
インドネシア	2.66
韓国	22.66
タイ	1.19
米国	2.97
上場株式合計	97.82
投資ポートフォリオ その他純資産	97.82 2.18
受益者に帰属する純資産	100.00

業種別（第二区分）

	公正価値 シンガポール・ドル	受益者に帰属 する純資産に 占める割合 %
バイオテクノロジー	12,347,555	20.97
商業サービス	528,450	0.90
ヘルスケア - 製品	5,595,796	9.51
ヘルスケア - サービス	9,419,546	16.00
医薬品	27,442,247	46.61
小売	1,637,733	2.78
ソフトウェア	614,621	1.05
投資ポートフォリオ	57,585,948	97.82
その他純資産	1,285,190	2.18
受益者に帰属する純資産	58,871,138	100.00

◆損益計算書

日興AMアジア・ヘルスケア・ファンド

2023年12月31日に終了した会計年度

	2023年 シンガポール・ドル
収益	
受取配当	601, 428
現金および現金同等物に係る利息	91, 991
	<u>693, 419</u>
費用	
運用報酬	379, 213
名義書換代理人報酬	2, 380
受託者報酬	17, 650
保管報酬	23, 565
監査報酬	29, 851
評価報酬	23, 534
取引費用	124, 366
その他費用*	83, 988
	<u>684, 547</u>
純利益（損失）	<u>8, 872</u>
投資に係る純（損失）利益	
投資に係る純損失	(4, 755, 502)
純為替差損	(196, 566)
	<u>(4, 952, 068)</u>
税引前当期利益（損失）合計	(4, 943, 196)
所得税	(50, 816)
	<u>(4, 994, 012)</u>
税引後当期利益（損失）合計	<u>(4, 994, 012)</u>

* 残高には本ファンドの監査人のネットワーク・ファームに支払われた非監査関連報酬が含まれるが、2023年度の同報酬額はゼロであった（2022年度の同報酬額は9,208シンガポール・ドル）。

マネー・アカウント・マザーファンド

運用報告書

第14期（決算日 2023年10月12日）
（2022年10月13日～2023年10月12日）

当ファンドの仕組みは次の通りです。

信託期間	2009年10月30日から原則無期限です。
運用方針	公社債への投資により、安定した収益の確保をめざして安定運用を行ないます。
主要運用対象	わが国の国債および格付の高い公社債を主要投資対象とします。
組入制限	株式への投資は行ないません。 外貨建資産への投資は行ないません。

ファンド概要

主として、わが国の国債および格付の高い公社債に投資を行ない、利息等収益の確保をめざして運用を行ないます。ただし、市況動向に急激な変化が生じたとき、ならびに残存信託期間、残存元本が運用に支障をきたす水準となったときなどやむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用ができない場合があります。

【運用報告書の表記について】

・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

○最近5期の運用実績

決 算 期	基 準	価 額		債 組 入 比	券 率	純 資 産 額
		期 騰 落	中 率			
10期(2019年10月15日)	円		%		%	百万円
	10,028		△0.0		—	586
11期(2020年10月12日)	10,025		△0.0		—	888
12期(2021年10月12日)	10,023		△0.0		—	1,125
13期(2022年10月12日)	10,022		△0.0		—	560
14期(2023年10月12日)	10,018		△0.0		—	458

(注) ファンドの商品性格に適合する適切なベンチマークおよび参考指数はございません。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準	価 額	
		騰 落	率
(期 首) 2022年10月12日	円		%
	10,022		—
10月末	10,022		0.0
11月末	10,021		△0.0
12月末	10,020		△0.0
2023年1月末	10,020		△0.0
2月末	10,020		△0.0
3月末	10,020		△0.0
4月末	10,020		△0.0
5月末	10,019		△0.0
6月末	10,019		△0.0
7月末	10,019		△0.0
8月末	10,018		△0.0
9月末	10,018		△0.0
(期 末) 2023年10月12日	10,018		△0.0

(注) 騰落率は期首比です。

○運用経過

(2022年10月13日～2023年10月12日)

基準価額の推移

期間の初め10,022円の基準価額は、期間末に10,018円となり、騰落率は△0.0%となりました。

基準価額の変動要因

期間中、基準価額に影響した主な要因は以下の通りです。

<値下がり要因>

- ・無担保コール翌日物金利がマイナス圏で推移したこと。

(国内短期金利市況)

無担保コール翌日物金利は、期間の初めの-0.03%近辺から、日銀によるマイナス金利政策の下でコール市場でもマイナス圏での取引が続き、-0.03%近辺で期間末を迎えました。

国庫短期証券（TB）3ヵ月物金利は、期間の初めの-0.16%近辺から、日銀による国債買入れの継続などを受けてマイナス圏での推移が続き、-0.21%近辺で期間末を迎えました。

ポートフォリオ

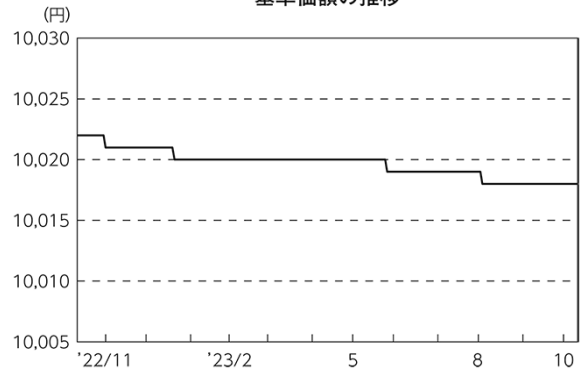
運用の基本方針に従い、国庫短期証券の購入や現先取引、コール・ローンや金銭信託などを通じて、元本の安全性を重視した運用を行ないました。

○今後の運用方針

引き続き、安定した収益の確保をめざして安定運用を行なう方針です。主要投資対象は原則として、わが国の国債および格付の高い公社債とし、それらの現先取引なども活用する方針です。また、コール・ローンや金銭信託などに投資することもあります。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

基準価額の推移



期首	期中高値	期中安値	期末
2022/10/12	2022/10/13	2023/08/03	2023/10/12
10,022円	10,022円	10,018円	10,018円

○1万口当たりの費用明細

(2022年10月13日～2023年10月12日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) そ の 他 費 用 (そ の 他)	円 0 (0)	% 0.000 (0.000)	(a)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 その他は、信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	0	0.000	
期中の平均基準価額は、10,019円です。			

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2022年10月13日～2023年10月12日)

該当事項はございません。

○利害関係人との取引状況等

(2022年10月13日～2023年10月12日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2022年10月13日～2023年10月12日)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

○組入資産の明細

(2023年10月12日現在)

2023年10月12日現在、有価証券等の組入れはございません。

○投資信託財産の構成

(2023年10月12日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
コール・ローン等、その他	460,554	100.0
投資信託財産総額	460,554	100.0

(注) 比率は、投資信託財産総額に対する割合です。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2023年10月12日現在)

項	目	当	期	末
(A) 資産				円
	コール・ローン等			460,554,227
(B) 負債				
	未払解約金			460,554,227
	未払利息			154
(C) 純資産総額(A-B)				458,012,074
	元本			457,205,640
	次期繰越損益金			806,434
(D) 受益権総口数				457,205,640口
	1万円当たり基準価額(C/D)			10,018円

(注) 当ファンドの期首元本額は559,411,728円、期中追加設定元本額は65,398,257円、期中一部解約元本額は167,604,345円です。

(注) 2023年10月12日現在の元本の内訳は以下の通りです。

・グローバル・プロスペクティブ・ファンド	237,562,073円	・資源株ファンド 通貨選択シリーズ<オーストラリアドル・コース> (毎月分配型)	1,008,393円
・中華圏株式ファンド (毎月分配型)	61,601,208円	・インデックスファンドMLP (1年決算型)	873,815円
・グローバルC o C o債ファンド 円ヘッジコース	39,403,892円	・S M B C ・日興 世銀債ファンド	817,802円
・グローバルC o C o債ファンド ヘッジなしコース	16,912,508円	・エマーゼン・プラス・円戦略コース	690,677円
・エマーゼン・ハイ・イールド・ボンド・ファンド(マネーボールファンド)	12,476,397円	・欧州社債ファンド Bコース (為替ヘッジなし)	553,224円
・エマーゼン・プラス(マネーボールファンド)	9,883,036円	・D C世界株式・厳選投資ファンド	472,243円
・アジア社債ファンド Bコース (為替ヘッジなし)	9,797,265円	・ピムコUSハイインカム・ローン・ファンド (毎月分配型) 為替ヘッジあり	421,031円
・資源株ファンド 通貨選択シリーズ<ブラジルリアル・コース> (毎月分配型)	9,153,672円	・世界標準債券ファンド (1年決算型)	260,591円
・インデックスファンドMLP (毎月分配型)	7,091,485円	・欧州社債ファンド Aコース (為替ヘッジあり)	198,309円
・アジア・ヘルスケア株式ファンド	6,597,366円	・資源株ファンド 通貨選択シリーズ<南アフリカランド・コース> (毎月分配型)	117,667円
・エマーゼン・ハイ・イールド・ボンド・ファンド・ブラジルリアルコース	6,192,802円	・上場インデックスファンド海外新興国株式 (MSCIエマーゼン)	99,902円
・世界標準債券ファンド	6,082,942円	・グローバル・ハイブリッド・プレミア (為替ヘッジあり)	48,754円
・ビッグデータ新興国小型株ファンド (1年決算型)	5,821,782円	・グローバル・ハイブリッド・プレミア (為替ヘッジなし)	22,949円
・エマーゼン・プラス・成長戦略コース	3,018,587円	・上場インデックスファンド海外先進国株式 (MSCI-KOKUSAI)	19,997円
・ピムコUSハイインカム・ローン・ファンド (毎月分配型) 為替ヘッジなし	3,000,903円	・上場インデックスファンド米国株式 (S&P500)	19,983円
・アジアリートファンド (毎月分配型)	2,676,160円	・上場インデックスファンド豪州リート (S&P/ASX200 A-REIT)	19,977円
・アジア社債ファンド Aコース (為替ヘッジあり)	2,538,599円	・上場インデックスファンド新興国債券	9,981円
・グローバル・ダイナミックヘッジα	2,517,567円	・上場インデックスファンドフランス国債 (為替ヘッジあり)	9,979円
・資源株ファンド 通貨選択シリーズ<米ドル・コース> (毎月分配型)	1,963,920円	・上場インデックスファンドフランス国債 (為替ヘッジなし)	9,979円
・インド株式フォーカス (奇数月分配型)	1,797,541円	・上場インデックスファンド豪州国債 (為替ヘッジなし)	9,978円
・グローバル株式トップフォーカス	1,696,908円	・上場インデックスファンド豪州国債 (為替ヘッジあり)	9,978円
・グリーン世銀債ファンド	1,451,090円	・上場インデックスファンド米国株式 (S&P500) 為替ヘッジあり	9,967円
・アジアREITオープン (毎月分配型)	1,224,190円	・上場インデックスファンド米国債券 (為替ヘッジなし)	9,958円
・日興マナー・アカウント・ファンド	1,018,655円	・上場インデックスファンド米国債券 (為替ヘッジあり)	9,958円

(注) 1口当たり純資産額は1,0018円です。

○損益の状況

(2022年10月13日～2023年10月12日)

項	目	当	期
			円
(A)	配当等収益	△	198,410
	受取利息		939
	支払利息	△	199,349
(B)	保管費用等	△	102
(C)	当期損益金(A+B)	△	198,512
(D)	前期繰越損益金		1,218,941
(E)	追加信託差損益金		129,627
(F)	解約差損益金	△	343,622
(G)	計(C+D+E+F)		806,434
	次期繰越損益金(G)		806,434

(注) 損益の状況の中で(E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 損益の状況の中で(F)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

上記各資産の評価基準及び評価方法、また収益及び費用の計上区分等については、法律及び諸規則に基づき、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して評価計上し処理しています。

○お知らせ

約款変更について

2022年10月13日から2023年10月12日までの期間に実施いたしました約款変更は以下の通りです。

- 当ファンドについて、新NISA制度における成長投資枠の要件に適合させるため、当該ファンドにて行なうデリバティブ取引の利用目的を明確化するべく、2023年7月21日付けにて信託約款の一部に所要の変更を行ないました。(付表、第16条、第17条、第18条)